

教育カウンセラー

あきた

5

平成16年 8月21日発行



今、学校が問われている

秋田県教育カウンセラー協会
代表 水戸谷 貞夫

21世紀の教育の在り方を求めての教育改革が進められている。様々な構想や提言を見聞きするたびに、何となく落ち着かない気持ちにさせられているこの頃である。特に、学校教育の在り方に対するものが多いことに着目している。先日も義務教育の9年間を教育委員会の裁量に委ねてもよいという案が出されて驚いたことがあった。

今、カルチャースクール、フリースクール、バーチャルスクール等の様々な「スクール」が出現し、対応に追いつかないという方もいる。例えばバーチャルスクールはコンピューターを核とする通信ネットワークを利用して、特定の時間や場所に人を集めるのではなく、いろいろな時間にいろいろな場所にいる人々が学習できる機会を提供しようとするものであると聞いている。教える側と学ぶ側が離れている教育の形態は、これまでも通信教育などで行われているが、コンピューターネットワークを利用することで、学習する時間の自由性とコミュニケーションの双方向性が可能となることから、この形態で学ぶことに積極的な意義があるとされている。このバーチャルスクールは、現在の学校の存在を問い直す契機になっている。学校は学習者である児童生徒と指導者である教師が、同一の場所と時間を共有してかわりを持ち、知識・技術の習得や人間形成に大きく役立つものとされているところである。これからの学校がどうあるべきかが問われているのではないだろうか。その回答は、現在、教育を担当する方々が出すべきではないかと思っている。

6 / 26 教育カウンセリング研修会アンケートまとめ ～ 育てるカウンセリングによる3つのアプローチ～

1 Aコース「関係づくりに生かすソーシャルスキル・トレーニング」(講師：曾山和彦、NPO日本教育カウンセラー協会上級教育カウンセラー)

・1日がとても短かったです。断片的にしか知らなかったものがエクササイズとその「種明かし」を通して、一つの道筋でつながったように思います。積極的に発言したり、決断したり、活動したりできる子どもたちだけが目立ちますが、そうでない子どもへの配慮が初めからきちんと考えられているところが素晴らしいです。最後の「いいとこ四面鏡」では、思いがけないプレゼントをいただき、自己発見することができました。簡単な言葉でもプレゼントしてもらえるととてもうれしいことです。ちょっと、はまりそうです。



・昨年に引き続き2回目の受講です。今回初めて出会った方もいる中、あたたかい雰囲気
で勉強することができました。ソーシャルスキルとは何かから、こんなエクササイズがあ
るまで、幅広く学べました。非行予防教室、講演等で「つかみ」としても使えるものもい
くつかあったかなと思います。また機会があったら勉強したいと思います。

・今日はとても気持ちよく研修できました。SST、SGE、両者の明確な整理は自分の
心の中でまだついていませんが、しかし、KAZUさんが終わりの言葉で述べてくれた「子
どものためになるものを、自分自身の心の中にストーンと落ちるものを実践していくことが大
切」ということが今後の実践のベースになると思います。

2 Bコース「新たな自己に気づく構成的グループ・エンカウンター」(講師：阿部千春、 NPO日本教育カウンセラー協会上級教育カウンセラー)

・一日でこんなにたくさんのエクササイズをしたのは初めてでした。さまざまなエク
ササイズを通して、グループの皆さんのことが少しずつわかっていくにつれ、自分自
身のことが見えてきたということには、本当に驚いてしまいました。「SGEって、
こういうことか！」と何か少しわかったような気がしました。まだまだ学ぶべきこと
がたくさんあることを再認識いたしました。

・「つらい切ない体験」は、私にとってつらいものでした。話したくないことだったのに、
なぜ語れたのでしょうか。それは、きっと参加者の人柄とそれまでのエクササイズ、スプリ
ングさんが自らの体験を語ってくれたからだと思います。自分のことを見つめなおす、よ
い機会でした。スプリングさんが自らを語ってくださったことは、参加者にとって、信頼
や安心などのプラスの感情がたくさんわいてきて、よいエクササイズになったと思います。

・SGEは、自分をみつめるためになくはならないものになりつつあります。また、「墓
碑銘」を考えるにあたり、これまでの自分の人生は結構楽しんで生きてきていると改めて
感じました。何かにつまずいたとき、ここで終わりではなく、またここから始まり、何度
でもやり直しがきくと気づきました。

3 Cコース「個別対応に生かせるブリーフ・セラピー」(講師；高橋さゆ里、NPO日本 教育カウンセラー協会上級教育カウンセラー、学校心理士)

・ブリーフセラピーについて、実践を交えて学習できたことが今日一番の収穫です。いつ
もながら、研修会にもかかわらず、楽しくて癒される時間と空間でした。さゆりんの一言
一言が、私にとって励ましの一語のように聞こえました。このような一日研修が、二ヶ月
に一度の割合で開催されますよう願っています。

・岩手から来たのに、たった二千元ですばらしい勉強ができて、その上おいしいお弁当ま
でいただいてしまって、得したような、申し訳ないような気持ちでいっぱいです。念願だ
ったブリーフセラピーの演習は、とても楽しいものでした。まだまだ実際にうまく使える
とは思いませんが、これからがんばって勉強していきたいと思います。

・関係書籍を読むと、技法を前面に出した鮮やかな相談例に圧倒さ
れます。今日一日、じっくり研修してみてそんなにうまくはいかない
ことを実感しました。「技法ではなく、考え方をカウンセリングに
生かす」と言葉をかみしめたいと思います。エンカウンターを適宜
加えた研修の構成も参考になりました。



カウンセリングトピックス;「ストロークとは何か」

ストロークとは、「相手の存在や価値を認めるような様々な刺激」のことである。愛するにしても憎むにしても相手の存在を認知しているから生まれるのであり、ストロークは「存在認知の一単位」とも言える。ストロークを与えたり、もらったりするには、「スキンシップ」、「言葉」、「非言語(うなずき、まなざし等)」の三つがある。ストロークの種類には「肯定的」、「否定的」、「条件付き」、「無条件」の四つがある。個人にあるストロークの蓄えは、銀行預金と同じ。他人と交換するストロークには収支がある。自分のストロークを与えすぎて、もらうものが少ないと預金高が底をつく。ストロークの預金が赤字になりそうだったら、「自分自身で自分にストロークを与える」、「相手から欲しいストロークを要求する」など、すればよい。ストローク預金が少ない状態だと、疲労感、憂鬱になり、閉鎖的になる。すると、もはや他者にストロークを与えることを止め、その結果、見返りのプラスストロークも入ってこなくなってしまう。ストロークについては、「貧しいものはさらに貧しくなり、富めるものはますます富を増す」という法則がある。心の中のストローク預金が70%以上あれば、生き生きとした楽しい気分でいられる。「私は愛されている」「私は大事な存在だ」という預金たくさんあるのだから、事にあたるとうまく行く場合が多く、さらに自信が増す。そして、他人から認められる機会も多くなり、さらに多くのプラスストロークが得られ、預金高が増す。

預金高がたっぷりの人は、惜しみなく他者にプラスのストロークを与えよう!! 預金高が少なくなっている人は、自分で自分にプラスのストロークを与えよう、相手から欲しいプラスのストロークを要求しよう、そして、預金高が増えてきたら、それを惜しみなく他者に与えよう!!



<参考・引用文献>

・「交流分析のすすめ」; 杉田峰康, 日本文化科学社, 1990

お知らせ 教育カウンセラー養成講座 秋田会場

日時 2004年10月30日(土) 31日(日) 11月7日(日) 9:30 - 16:30

会場 秋田市 千秋会館(秋田市南通みその町3-33 018-832-7766)

参加費 35,000円(受講料、資料代含む)

申込方法 払込取扱票に必要事項をご記入の上、参加費を下記郵便振替口座にご送金ください。入金確認後、受講票、認定申請書類をお送りいたします(なお、ご送金後、入金確認まで1週間程度時間がかかります。ご了承ください)。

加入者名	秋田県教育カウンセラー協会
郵便振替口座番号	02270-4-39679

* 郵便局にあります払込取扱票（青色）の通信欄に、氏名（ふりがな）、勤務先名、役職・担当、連絡先住所・電話番号、受講希望日、参加種別（協会会員は会員番号、後援各学会会員は学会名、一般、学生をご記入ください）

申込 2004年8月30日（月）～10月4日（月）
期間

問合せ 秋田県教育カウンセラー協会
FAX 018-896-4501 Mail jeca_akita@yahoo.co.jp

講座内容 会場受付は毎日9：00からです。

期日	午前の内容 9:30 - 12:30	午後の内容 13:30 - 16:30
10/30 （土）	教師のためのソーシャル・スキル - 実践1 - 都留文科大学教授 河村茂雄	アンケートQ-Uを生かした学級経営 上級教育カウンセラー 小野寺正己 上級教育カウンセラー 苅間澤勇人
10/31 （日）	教師の悩みとメンタルヘルス 明治大学助教授 諸富祥彦	構成的グループエンカウターの 留意点と実際 聖徳栄養短期大学助教授 岡田 弘
11/7 （日）	気が楽になる論理療法 青森明の星短期大学客員教授 國分久子	教師のリーダーシップ 東京成徳大学教授 國分康孝

編・集・後・記

今、オリンピックが日本人の心を熱くしている。東京オリンピックの金メダル数は16個で過去最高だったが、それを上回りそうな勢いなのだから当然である。その中でも体操で団体優勝したときのキャプテン米田の言葉が印象的だった。「みんなで取ろうと思ってがんばってきた金メダルなんだから最高にうれしい。」金メダルを目指してみんなで歯を食いしばって励まし合って練習してきたことがその言葉の裏側から感じられる。また、女子柔道の谷本選手は優勝した瞬間にコーチに飛びついて喜びを爆発させていた。団体競技でも個人競技でもそれぞれがチームとして一つの目標に取り組んできたのである。そして、これが私たちの目指しているものではないだろうか。同じ目標を持つ私たちが手を取り、ともに学び合い、励まし合う。子どもたちの健全な成長を願う私たちが、一つのチームとなることが大きな力を生むのではないかと思う。アテネではまだまだ熱い戦いが続いている。今日も眠い目をこすりながらTVの前で応援したい。がんばれ！にっぽん！！（Y）